

芦安中学校後期自己評価書

令和3年1月20日（水）

南アルプス市立芦安中学校

1 後期自己評価の経過

(1) 後期教職員対象アンケート及び生徒対象・保護者対象アンケートの実施（12月）

(2) アンケート結果の考察を基に職員会議にて改善方策の審議（1月）

小中一貫校の取組の観点から、評価項目は基本的に芦安小学校との共通で実施。

2 学校評価の分析と改善方策

(1) 学校運営・学校経営

〔達成状況〕学校運営・学校経営に関しては、全体的に職員が学校教育目標を意識して取り組んだことが表れ、肯定的な回答が多く良好な状態にあると言えるが、一部の校務分掌に関して改善の余地が残っている。また、教育活動をPDCAサイクルに従って改善を進めているが、全体的にバランスの良さが必要である。校内研究の取組は、小中一貫による全体の校内研究会を工夫しながら実施することができ、研究主任を中心とした連携による取組を行っており、全体としての話し合いができ、研究を進めることができた。校務分掌に関しては、少しずつ改善はしているが、本校は小規模校のため1人で複数の分掌を受け持ったり、慣れない分掌を任されることがあるため、さらなる連携体制を整える必要がある。

〔改善策〕学校運営・学校経営に関して全体的に肯定的な回答がほとんどであるが、AとBの割合がまだ半々であり、全員がBからAへ移行できるようさらに意識を高め目標を持って継続的に取組を行っていききたい。また、より充実した教育活動を展開していくためにはPDCAサイクルによる改善が不可欠で、現状を分析しながら会議や打ち合わせを通してさらなる改善を図っていききたい。2学期は、感染防止対策を講じながら、小中合同の校内研を研究主任を中心に打ち合わせを重ね、講師を招いて全体での研究会を実施し、研究成果が得られた。また、道徳の授業参観と小中合同の教育を語る会を行い、体育館が密にならないように、5校時に中学校が教育を語る会・小学校が道徳授業参観、6校時に小学校が教育を語る会・中学校が道徳授業参観を実施し、中学校では学年部会も実施できた。また、学校運営にあたって各分掌の職員同士が互いに相談できる体制を整え、連携を取って共通理解を図りながら学校全体で取り組む意識をさらに高めていききたい。小規模校の特性をふまえ、教育活動が常に全職員の共通理解のもと連携しながら進められるようにする。

(2) 学習指導

〔達成状況〕全体としては概ね良好であると言える。感染症防止対策を講じながら、授業でやまなしスタンダードによる授業改善に取り組んでいるが、話し合い活動や対面による発表活動等をマスクを着用しながら距離を保って行っている。授業の中で、めあて（目標）を示して授業を展開し、振り返り

を行うことで、制限がある中ではあるが、基礎・基本の定着が図られるようになってきている。また、授業中、発言や発表をしたり、教師や友達の発表に耳を傾けるという項目で、授業に対する意識が高まった生徒がさらに増え、アンケートを取るたびに数値が高くなってきており、集中力が身につけてきている。その成果として、全学年で定期テストはもちろん到達度確認検査でも成績がかなり伸びてきている。しかし、授業の中でわからないことがあり、あまり楽しくないという生徒が1割、子どもの授業内容の理解度を心配している保護者が2割強おり、よりわかりやすい授業や個別指導がさらに必要である。また、授業中、発言や発表をしたり、教師や友達の発表に耳を傾けるという項目で意識が高い生徒が多い反面、2割弱の生徒が否定的な回答をしている。家庭学習については、与えられたものについてはできるようになってきているが、自主学習にはまだ課題がある。

【改善策】授業の中でわからないことがあり、あまり楽しくないという生徒が一部おり、よりわかりやすい授業を目指す授業改善とさらなる個別指導や放課後の学習サポート等を行い、個に応じた指導をさらに充実させていきたい。授業に対する意識が高まり、集中力が身につけてきており、その成果として、全学年で定期テストはもちろん到達度確認検査でも成績がかなり伸びてきており、この状態を維持し、継続させていきたい。しかし、一方で2割ほどの生徒と保護者が授業内容の理解度を不安に思って否定的な回答をしており、授業内容の理解度には、個人差があるため、生徒のつまずきを丁寧に見取り、わかる授業に向けた授業改善と個別の生徒へのサポート体制を充実させていきたい。保護者の目からは、宿題がきちんとできていると感じられる割合は65%で、35%の保護者は否定的な回答をしており、ほとんどの生徒が肯定的な回答をしている生徒のアンケートと意識の違いが見られる。宿題に関しては生徒たちの意識に変化が見られ徐々に改善されてきており、否定的な回答をしている生徒はなく、さらに発展的な学習に向けた指導や個別対応をさらに充実させていきたい。家庭学習については、宿題から自主学習へと発展できるように、家庭学習と授業との有機的な結びつきを意識した効果的な指導について自主学習ノート等も活用しながら指導し、家庭との連携をより一層強めていきたい。また、「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業の工夫および指導内容や指導方法の改善を校内研究会を中心に組織的に推進し、わかる授業づくりをさらに研究していきたい。

（3）生徒指導

【達成状況】生徒の学校生活全般については、「学校は楽しいですか」という項目に対して9割以上が肯定的な回答をしており、概ね良好な状態ではあるが、一人ひとりの状況を見てみると悩みや問題を抱えている生徒もおり、25%の保護者が不安を持っている。学校生活においては、全般的に良好で、生徒たちの主体的に考え行動できる場面が増えてきている。全校で同じ目標に向かってさらに意識が高められるように、今後も指導や支援をしていきたい。また、当番や係・委員会の仕事・清掃活動への取組は徐々に改善されてきている。学校のきまりの遵守やあいさつも、年々改善され、意識も高くなってきている。しかし、保護者は学校での子どもの友達関係をとっても心配しており、「仲の良い友達がいるか」は30%の保護者が、「困ったときに相談できる友達がいるか」は35%の保護者が不安を抱いている。学校では、教師と生徒の信頼関係を築くとともに、生徒の日々の様子を把握し、微妙な変化も見落とすことのないよう努めると同時に、生徒同士の人間関係づくりを強力にサポートしてい

きたい。また、学校での出来事を話す時間はあるかという項目では、9割以上の保護者が肯定的な回答をしており、学校での様子がある程度家庭に伝わっており、今後も継続して家庭への情報発信を行っていききたい。

〔改善策〕生徒の学校生活全般については、概ね肯定的な回答が多いが、一人ひとりの状況を見てみると悩みや問題を抱えている生徒がおり、前期と比較するとやや改善されているが、学校での生徒たちの友達関係を保護者はとても心配しており、「仲の良い友達がいるか」や「困ったときに相談できる友達がいるか」に関して不安を抱いている保護者がおり、学校では、教師と生徒の信頼関係を築くとともに、生徒の日々の様子を把握し、微妙な変化も見落とすことのないよう努めると同時に、生徒同士の人間関係づくりを継続的にサポートしていききたい。また、「先生は声をかけたり、話をしてくれませんか」の項目は改善が進んでいるが、引き続き日々の学校生活の中で、生徒一人ひとりとの対話を大切にし、コミュニケーションを積極的に行うことで生徒理解に努めていききたい。そして、自分の考えや意見を伝えるとともに、他者の話に耳を傾ける姿勢を生徒が持てるように、教職員が生徒一人ひとりとの対話を大切にし、積極的にコミュニケーションを行って信頼関係を深め、生徒全員が孤立することがないように生徒の小さな変化に気づくように共感的な生徒理解に努めていききたい。また、あいさつは、かなり意識が高くなって改善されており、学校のきまりの遵守も意識が高まってきている。当番や係・委員会の仕事、清掃活動への取組は改善されてきており、継続して指導を行っていききたい。朝食を取っているかについては、1割強の否定的な回答があり、健康保持に向けて望ましい生活習慣と食習慣の大切さについて指導した。校舎の安全管理や衛生指導、保健指導についても、手指の消毒やソーシャルディスタンス等の感染症対策を講じた上で、生徒たちの健康安全面に配慮しながら指導を行うことができ、今後も継続して指導していききたい。

〔4〕保護者・地域との連携

〔達成状況〕2学期には感染症防止対策を講じながら、10月には授業参観や教育を語る会・学年部会等で実施し、多くの保護者に来ていただいた。教育を語る会では、SNSをテーマに全校生徒・保護者とともに講演会で学び、今年度最初の授業参観では道徳の授業を通していっしょに考えていただいた。学校の様々な取組が本格的に始まり、家庭での読書は、否定的な回答は、5割を超えている。「家の人と学校の話をしてもらいますか」という項目に対しては全員が肯定的な回答をしており、親子で学校の話を通してコミュニケーションがとれていることがよくわかる。家庭での生活は、早寝早起き等の規則正しい生活を実践できている生徒が8割を超え、生活のリズムが整えられてきた。学校の教育活動について情報の提供・公開を行っているかという項目では、約65%の保護者が肯定的な回答をしているが、35%の保護者が否定的な回答をしており、前期と比較すると数値が落ちている。

〔改善策〕2学期に入り、10月には授業参観や教育を語る会・学年部会等で実施し、多くの保護者に来ていただき、教育を語る会では、SNSをテーマに全校生徒・保護者とともに講演会で学び、今年度最初の授業参観では道徳の授業を通していっしょに考えていただいた。その日の最後の学年部会では学校での様子や今後の予定や取組について情報共有をし、有意義な時間が過ごせた。今後も感染症対策を講じながら、さらに連携を深めていききたい。学園祭や学習の取組が本格的に始まり、家庭での

読書は、否定的な回答は、5割を超えている。学校の朝読書の活動の延長として、もう一度読書の意義を確認しながら読書活動に力を入れていきたい。学校の校則の確認が一部の保護者にうまく伝わらない場面があったが、その後のお便り等の配布と説明で共通確認ができた。学校の教育活動の情報発信を定期的に行い、学校ホームページや学校だより・学年だより等を通して、その都度必要な情報の伝達を行い、保護者の理解を得られるように今後も継続していきたい。あいさつ運動で市や地域の方々と連携できたことはとてもよかった。さらに、生徒たちが安全・安心な学校生活が送れるように、定期的に安全指導や安全点検を行い、可能な範囲で地域や保護者とともに取り組むようにしていきたい。家庭での生活は、早寝早起き等の規則正しい生活を実践できている生徒が8割を超え、生活のリズムが整えられており、今後も継続して規則正しい生活を送れるように個別指導も含めた指導を行い、継続的に取り組んでいきたい。PTA活動に積極的に関わっているかという項目では、75%の保護者が肯定的な回答をしているが25%の保護者がそう感じていない。コロナ感染症対策でPTA活動が少なくなっている中、授業参観と教育を語る会は実施できたが、今後も保護者と教育目標を共有しながらより多くのPTA活動へ参加・協力していただけるように計画・工夫・改善しながら、さらなる充実を図っていきたい。

(5) 学校の特徴ある取り組み

〔達成状況〕2学期は、感染症防止対策を講じながら白峰祭を実施し、オンライン合唱や距離を十分にとって行った太鼓演奏など活動を工夫しながら多くのことに挑戦できた。感染症防止対策を講じ、芦安ファンクラブの方々にご指導をいただき、10月には輪かんじき作りに向けて自然体験学習として全校で学校林枝打ちを行い、11月末には3年生が輪かんじき作りに取り組めた。また、英語活動で初めての試みとして全学年がオンライン英会話に取り組み、全く面識のないALTに協力を依頼して、生徒たちが自分で考えた原稿をもとにしたスピーチや英会話に取り組むことができた。さらに、12月末には、地域の方々の協力によって学校の水槽で孵化させたアマゴを学校林周辺の川へ放流する自然体験活動も実施できた。小中合同行事に関しては、感染症防止対策を講じ活動の制限は受けるが、2学期半ばに来年度に向けて中学校1・2年生と小学校5・6年生による小中合同の太鼓練習が実施できた。

〔改善策〕2学期は、感染症防止対策を講じながら白峰祭を実施し、オンライン合唱や距離を十分にとって行った太鼓演奏など活動を工夫しながら多くのことに挑戦できたことは生徒たちにとってとても大きな満足感につながった。今後もできる活動を工夫して実施していきたい。感染症防止対策を講じ、芦安ファンクラブの方々にご指導をいただき、10月には輪かんじき作りに向けて自然体験学習として全校で学校林枝打ちを行い、11月末には3年生が輪かんじき作りに取り組めた。全校生徒が自然体験活動に取り組めたことは大きな成果だった。今後も活動を工夫しながら可能な範囲でさらに取組を行っていきたい。また、英語活動で初めての試みとして全学年がオンライン英会話に取り組み、全く面識のないALTに協力を依頼して、生徒たちが自分で考えた原稿をもとにしたスピーチや英会話に取り組むことができ、英語タイムの創設によって英語活動が実施され、生徒たちにとってとてもいい経験となった。さらに、12月末には、地域の方々の協力によって学校の水槽で孵化させたアマ

ゴを学校林周辺の川へ放流する自然体験活動も実施でき、生徒たちが自然に触れる機会も作られた。日常の学校生活の充実を図ることが、生徒のさらなる成長へとつながるので行事運営だけでなく日常的な生徒会活動や委員会活動の活性化を進める中で、教育活動を展開していきたい。部活動については、長い臨時休業後、体力・筋力トレーニングから始まり負担は大きかったと思うが、部活動指導員の協力をえながら、実践的指導と個別指導を継続し、ガイドラインに基づき、換気とソーシャルディスタンスを意識した部活動に取り組んでいきたい。家庭での読書では、家には他の誘惑が多いこともあり、家庭での読書の否定的な回答は、3割を超えている。学校の朝読書の活動の延長として、言語活動の幅を広げるためにも読書活動や読書への啓発活動にもより一層力を入れて取り組んでいきたい。小中合同行事に関しては、感染症防止対策を講じ活動の制限は受けるが、2学期半ばに来年度に向けて中学校1・2年生と小学校5・6年生による小中合同の太鼓練習が実施できたことはとてもよかった。来年度に向けてさらに交流が深まるように工夫・改善していきたい。部活動については、2学期は3年生から1・2年生に活動がバトンタッチされ、バドミントン部は体力・筋力トレーニングから始まり、部活動指導員の協力を得ながら実践的指導を行って新人戦に参加し、音楽部は日常の活動に継続的に取り組み、活動が無事引き継がれ、自主的に取り組んでいる。

【重点課題】

1学期は、コロナウィルス感染症防止対策による児童生徒の健康・安全の保持と失われた授業の時数の確保を優先し、諸活動を縮減して学校生活を行ってきた。2学期は、学校生活が新しい生活様式の中で、教職員も生徒たちも創意工夫をしながら、実施可能な活動を考え、取り組んできた。授業内での発表活動や話し合い活動の充実、新しい生活様式を定着させた日常生活、授業参観や講演会、学年部会の実施によるPTA活動の運営、特色ある学校教育として、自然体験活動（学校林整備とアマゴ放流）や英語活動（オンライン英会話）等に取り組んできた。コロナ禍ではあるが、今学期は活動の幅がだいぶ増えたと言える。今後も新しい生活様式の中で保護者や地域と教育目標を共有し、教育活動を工夫しながら参加・協力していただき、さらなる教育活動の充実を図っていきたい。芦安中学校として、学校教育目標のもと、授業や様々な活動を通して、主体的に学びに向かい、表現活動や他者との対話によってより深い学びにつなげ、生徒の自治的な意識の高揚を図り、生徒の自己肯定感や自己有用感を高めていきたい。そして、家庭との連携と家庭学習の充実に取り組み、地域とのつながりの中で地域に誇りを持ち、豊かな感性を磨くこと、自他の理解を深めること、様々な個性を受け入れながら思いやりの心の育成することに努めていきたい。